

I 空港臨海部のまちづくり

1 空港臨海部ランドビジョン2030の改定

【令和元年度の成果】

- ビジョンの改定に当たり、学識経験者・区職員による専門部会、庁内関係職員からなる庁内検討委員会において、帰属問題が解決した中央防波堤埋立地を含め、ビジョンの骨格となる空港臨海部の将来像及び基本方針について検討し、案まで取りまとめた。

【今後の展開】

- 区民からの意見を確認するため、アンケートを実施している。また、事業者との意見交換を行う。
- 新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮しながら、個別プロジェクトなどについて検討・とりまとめ、パブリックコメントを経て、策定する。

■将来像(案)

将来像1

開発、生産、廃棄・再生産の全工程において、卓越した技術・能力を有する技術者が全国・世界各国から集い交流・挑戦し、**高い付加価値を生み出す場**となっている。

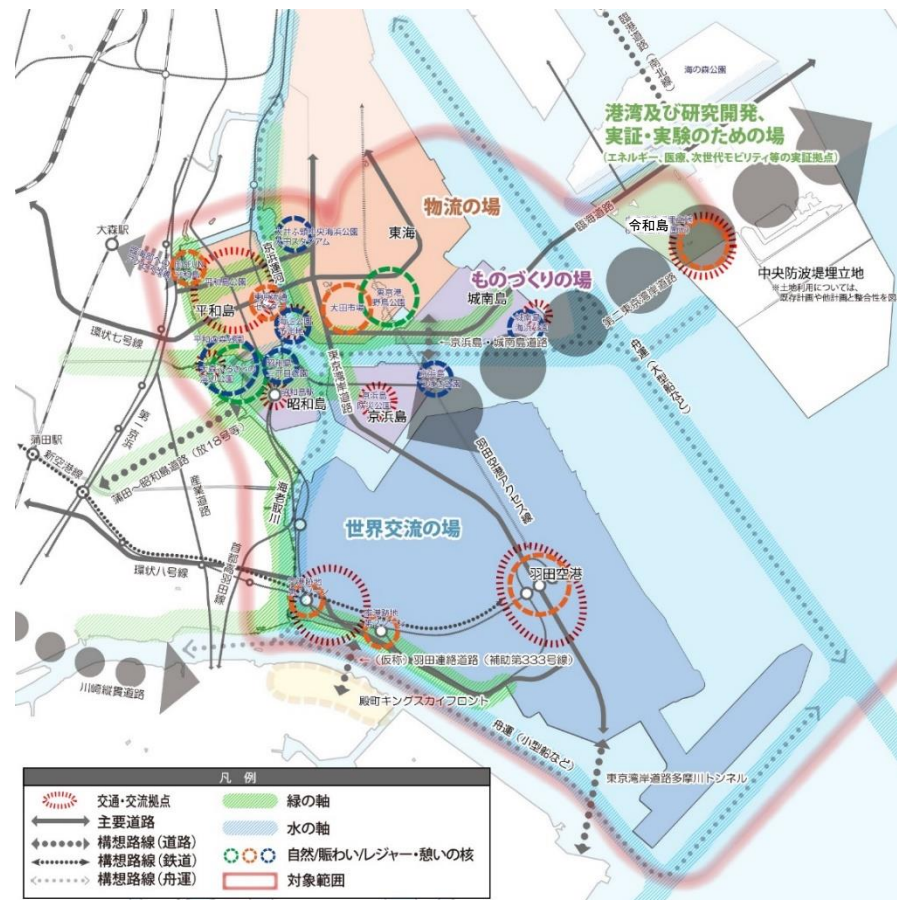
将来像2

都市部において貴重な自然資源（緑・川・海）やスポーツ・アート拠点として**区民にも都民にも親しまれるエリア**となっている。

将来像3

道路インフラのみならず、高次物流倉庫機能や先端技術を活用した交通網が高度に発展し、**東京湾岸の物流幹線網の一翼や、内陸部との交通網を担う**。大規模災害時には、復興を支える軸線となっている。

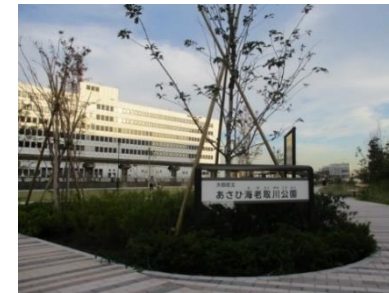
■将来都市方針図(案)



2 重点プロジェクト地区におけるまちづくり

【羽田旭町周辺地区】

- 令和元年（2019年）6月に開発事業が完了したことに伴い、提供公園（あさひ海老取川公園）や緑道を区と開発事業者が連携して整備し、「海辺の散策路」の一部として魅力ある空間を創出した。
- 今後の展開として、地域・開発事業者・区で締結した協定等に基づき、旧整備地区へのアクセス整備、地域課題の解決に向けた検討等を進めていく。



あさひ海老取川公園



整備された緑道(東側)

【流通センター駅周辺地区】

- 引き続き防災船着場の整備に向けて、開発事業者及び関係機関と協議・調整していく。

【大森ふるさとの浜辺公園周辺地区】

- 引き続き大森ふるさとの浜辺公園の利活用や公園へのアクセルルート等の検討を行っていく。

3 京浜島のまちづくり

【京浜島アクションプランの実施】

- お隣さんを知り、「従業員同士」の自然な交流から、企業同士の「新たな事業連携」を期待し、東京都京浜島工業団地協同組合連合会（以下「連合会」）と連携し、京浜島オープンファクトリー（KOF）を引き続き実施した。
- 令和元年度は、参加者拡大に向けた新たな取組みとして、見学企業に事前ヒアリングを行い、各社のPRポイントをまとめたチラシによりKOFを周知した結果、過去最多の39名が参加し、事業連携拡大の兆しが見え始めている。
- 今後の展開として、KOFを通じて企業同士の事業連携がさらに促進されるよう区と連合会との連携を強化していく。



10/23(水) 鋳物・鋳造工場見学



10/24(木) メッキ加工工場見学



10/25(金) 廃棄物中間処理工場見学

【京浜島3丁目区有地の駐車場整備】

- 平成30年度に実施した駐車実態アンケートで把握した駐車場不足問題を解決するため、京浜島3丁目の区有地を駐車場として整備し、改善を図っている。

※月極の大型車6台・普通車16台、時間貸の普通車5台である。



整備された駐車場

II 空港臨海部の交通ネットワーク

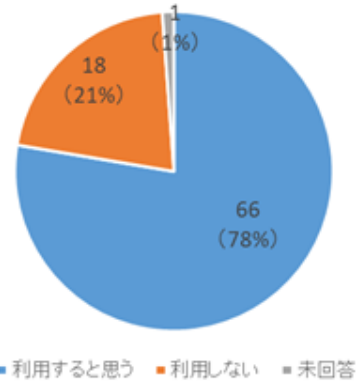
1 水上交通ネットワーク形成事業

【これまでの成果】

○プレ運航イベント“シーサイドクルーズ”

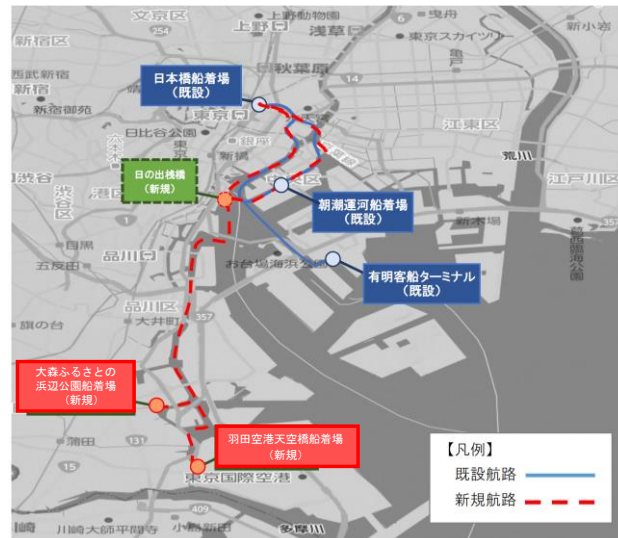
- 民間事業者による定期運航化を周知し、利用定着に向けて、プレ運航イベントをおおたふれあいフェスタの日（令和元年（2019年）11月2日、3日）に実施した。
- 民間事業者による定期運航に関して、利用意向等を把握するため乗船者にアンケートを実施し、85サンプルを回収した。
- 定期運航について、約8割が利用すると思うという回答であり、定期航路化の有効性を確認できた。（※右図参照）

定期運航後の利用意思 (N=85)



○定期航路化

- 民間事業者による一般旅客航路事業について、令和2年（2020年）2月20日に国土交通省関東運輸局から海上運送法第3条第1項に基づく許可を受けた。また、関東運輸局による安全確認検査も3月16日に合格している。



○災害時における物資等輸送協力に関する協定

- 大田区内における民間事業者による定期運航を契機に、災害が発生した際に協力を得るため、この事業者と物資輸送等に関する協定締結し、災害における官民連携による協力体制を構築することができた。
- 協力内容は以下のとおりである。
 - ・水上輸送拠点への支援物資等輸送
 - ・救急指定病院付近の水上輸送基地までの負傷者等の移送
 - ・水上訓練における輸送・移送
 - ・その他大田区が協力依頼する事項

【今後の展開】

- 今後の展開として、民間事業者による定期運航に向けて、東京都や民間事業者等と連携し、取り組んで行く。
- 東京都や民間事業者等と連携し、空港臨海部のまちづくりを含めた舟運の利活用方法の検討や舟運の周知活動の支援を行っていく。

2 国道357号東京湾岸道路(東京港トンネル及び多摩川トンネル)の整備進捗と影響検討【東京港トンネル東行き開通の効果検証】

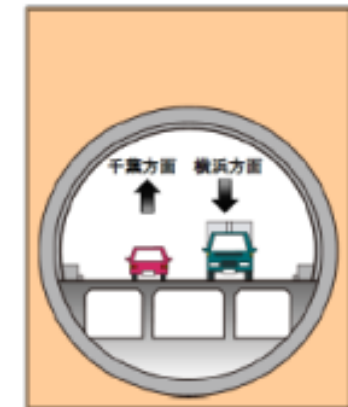
- 令和元年（2019年）6月に東京港トンネル東行き（内陸側）が開通した。
- 開通後に実施された調査結果などによると、城南島内の臨海道路を通過している自動車交通が減少し、旅行速度が改善され、羽田空港⇒台場地区の所要時間が約4割短縮するとともに、区の調査では、CO2排出量も削減され、環境改善に対する一定の効果が確認できた。
- 今後の展開として、区としても一定の効果が確認できたことから、臨海部における道路ネットワークのさらなる改善に向けて調査検討を進める。



出典:国土交通省ホームページ

【多摩川トンネル整備促進】

- 多摩川トンネルの早期整備を国土交通省に働き続けた結果、令和2年（2020年）2月に多摩川トンネルの本体工事に向けた準備工事に着手した。
- 令和2年度については、調査設計及び羽田地区改良工事が行われる予定である。
- 今後も引き続き、国土交通省から情報収集・連携し、早期完成に向けて取り組んでいく。



出典:国土交通省ホームページ